

JICA 教師海外研修 授業実践報告書

【実践者】

氏名	綿貫 誠	学校名	千葉県立津田沼高等学校
担当教科等	地歴公民（世界史）	対象学年（人数）	3 年 B 組（ 3 9 名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2 0 2 5 年 1 0 月 ～ 1 1 月（5 時間）		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：地歴公民・世界史探究		
2. 単元名と単元目標 単元名：「Swahili ساحل」 単元目標：「ESD 4 つのレンズと 5 つの見方」の考え方を基に、中世の東アフリカ（タンザニア）における諸地域の広がり多様なアクティビティで理解できるようになる。 関連する学習指導要領上の目標：世界史探究 C 諸地域の交流・再編 西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播、ヨーロッパ封建社会とその展開、宋の社会とモンゴル帝国の拡大などを基に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりを構造的に理解できるようになる。		
3. 単元の評価 規 準	①知識・技能	中央アジア・南アジア・東南アジア・アフリカの各地でどのようにイスラーム化が進んだのかを理解している。
	②思考・判断・表現	各資料をもとに、イスラーム教の伝播・拡大においてアラビア語の果たした役割を多面的・多角的に考察し表現している。
	③主体的に学習に取り組む態度	イスラーム教の各地への伝播について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
4. 単元設定の理由・単元の意義 (児 童 / 生 徒 観、教材観、指導観)	【単元設定の理由】 本単元は、アフリカ東海岸に形成された中世スワヒリ世界を扱い、インド洋交易を基盤とする都市社会の成立と発展を理解させるために設定した。生徒はアフリカ史を内陸中心・受動的な歴史として捉えがちであり、海洋交易や都市文化の存在について十分な理解が得られていない。そこで、地理的条件、交易品、イスラームの受容と在地文化との融合に着目することで、スワヒリ世界が外部から一方的に影響を受けたのではなく、主体的に形成された地域世界であることを明らかにする必要がある。このような視点から本単元を設定し、世界史を相互交流の歴史として捉える力を育成する。 【単元の意義】 本単元は、アフリカ東海岸に形成された中世スワヒリ世界を取り上げ、インド洋交易を基盤とする都市社会の成立と発展を通して、地域世界の多様性と相互のつながりを理解させることを目的として設定した。生徒は「アフリカ＝内陸・未開」という固定的なイメージを抱きがちであるが、スワヒリ都市はイスラーム文化とアフリカの要素が融合した高度な海洋交易社会であり、ユーラシア・アフリカを結ぶ国際的ネットワークの一角を担っていた。そこで本単元では、地理的条件、交易品、宗教・文化の受容と変容に着目し、史資料の読解や比較を通して、スワヒリ世界を「周縁」ではなく「主体的に形成された地域世界」として多面的に捉えさせる。これにより、生徒が世界史を単なる文明史・王朝史としてではなく、交流と相互作用の歴史として理解し、現代のグローバル社会を考える基礎的視点を身に付けることをねらいとする。 【児童／生徒観】 全体を通して落ち着いており、雰囲気良く仲が良い。進学学習の問いに対してクラス間で主体的・対話的に授業に取り組む様子が多々見受けられる。 【指導観】	

	歴史に対する興味・関心が強く自主的に学習を進めていく生徒がいる一方、「世界史」に苦手意識を持つ生徒もいるが、現代世界の国際政治、経済、語学、文化などと世界史を関連付けて意欲的に学習している。			
5. 単元計画（全6時間）				
	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	タンザニア ESD 4つのレンズと5つの見方	「ESD 4つのレンズと5つの見方」について世界史探究における多面的・多角的な視点を獲得する。	東京都市大学 佐藤真久教授 「正解がない問い/正解が複数ある問い」「世界を見る三つのものの見方」の話や ESD 持続可能性に関する諸課題と4つのレンズについて理解する。	
2	大 交 易 の 時 代	動画を視聴して世界史探究における多面的・多角的な視点を獲得する。	東シナ海や南シナ海、それにインド洋沿岸の諸地域の間では、海を越えた人々の交流や交易がすでに紀元前後から行われていたことへの認識を理解するとともに、14世紀ごろの交易についても理解を深める。	NHK 高校講座 世界史探究 第12回 大交易の時代
3	Unconscious Bias against Tanzania -From TPL(Tanzania PhotoLanguage)	タンザニア（アフリカ）について、自分自身のアンコンシャス・バイアスを理解し、タンザニア（アフリカ）に対する「学びほぐし」や「捉え直し」をする。	(1)アンコンシャス・バイアスの定義を理解するとともに、自身や社会は様々な「バイアス」にかかっていることを認識する。 (2)自身が、タンザニア（アフリカ）に対してどのようなアンコンシャスバイアスを持っていると思うか、想像する（勝手に思っている）「アフリカらしさ」を考える。 (3)タンザニアで撮影された写真とそうでないものを考え、なぜ「あなたはそう判断したか」を考える。	参照：一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所 アンコンシャス バイアス (unconscious bias) https://www.unconsciousbiaslab.org/unconscious-bias/ 政府広報オンライン 「アンコンシャス・バイアスを減らす3つのポイント！誰もが活躍できる社会に」 https://www.gov-online.go.jp/tokusyu/unconsciousbias/
4	「50－Hamsini」	神経衰弱風ゲームを通して、なぜスワヒリ語の語源にはアラビア語が関係しているかを考える。	(1)スワヒリ語の語源となった50種類のカードを用いて同じ語源のペアを探して揃える神経衰弱を行う。(英語・ドイツ語・ポルトガル語・ペルシア語・アラビア語・ヒンドゥー語) (2)獲得したカードの語源はどの組み合わせが多かったか、またなぜその言語が多いかを考察する	「50－Hamsini」カード
5	「Swahili ساحل」1回目	「Swahili ساحل」を通し「海のシルクロード」における経	「Swahili ساحل」海のシルクロードのゲームを行う ・イブン・バットゥータの旅した時代（1300年代）では、ボードゲ	・「Swahili ساحل」ルールブック ・「Swahili ساحل」権利書一覧

		済や言語のつながりを東南アジア、南アジア、中東、アフリカ、ヨーロッパなどの地域区分にとらわれず、世界の捉え直しを図る	ームに示されている諸地域で、なぜアラビア語が用いられていたか考える。 イブン・バットゥータの旅行路はどのような経路をたどっているか考察する。	・「Swahili ساحل」ゲームボード ・サイコロ（3つ） ・権利書カード ・歴史書（4枚1セット） ・世界地図（白地図） ・翻訳アプリ
6 本時	「Swahili ساحل」 2回目	上記と同じ	上記と同じ	上記と同じ

6. 本時の展開（6時間目）

本時のねらい：「Swahili ساحل」を通してイブン・バットゥータが旅した「海のシルクロード」諸地域の交流を「東アフリカ海岸」と関連させながら構造的に理解できるようになる。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点（支援）
導入 (5分) 展開 (40分)	●「Swahili ساحل」海のシルクロードの概観をつかむ。 「Swahili ساحل」のボード及び付属アイテムの準備を行う。 ※本時は前時の復習を兼ねて行っている。 ●「Swahili ساحل」海のシルクロードのゲームを行う。 ※ルールブックがあるので、適宜確認しながらゲームを進める。 その際、以下の内容を注意しながらゲームを進める。 ①「権利書」を獲得した場合、Google レンズを使用し、アラビア語で示されている以下の内容を確認する (1)都市名 (2)都市で取り扱われていた商品 (3)都市の説明 ②「フォルサ」や「奴隷市場」のマスに止まった場合、自身が入手したカードの本来の用語について理解する。 ③歴史書を獲得した場合、Google レンズを使用し内容を理解する。 ゲーム終了後、以下を生徒間で共有する。 つながりの問い1 Q イブン・バットゥータの旅した時代（1300年代）では、ボードゲームに示されている諸地域で、なぜアラビア語が用いられていたか？ つながりの問い2 Q 「Swahili ساحل」のボードゲームに示されている地域と、資料集 p 32～p33 に掲載されているものと見比べる。→イブン・バットゥータの旅行路はどのような経路をたどっているか？ つながりの問い3 ・「つながりの問い2」を踏まえて、なぜ東アフリカにはイスラーム文化がもたらされたか？ →アラビア語で「海岸」とはどのような意味か？	●14世紀のイスラーム世界の概観を理解できているかを各自確認するように促す。 ①について(1)～(3)の学習を通して、現代社会で頻繁に用いられる「6つの州」の考え方を変容させ、「イスラーム世界」としての経済的・文化的なつながりが当時存在したことを意識させる。 ②について授業の既習事項である。思い出せない場合は、生徒間や教師からの助言を受け理解を進める。 ③について東アフリカとイスラーム世界を理解するてがかりになるので、特に注力を入れて学習するように促す。 つながりの問い1アラビア語がイスラーム世界における国際的な言語として、経済や文化的交流の役割を担っていることに気づかせる。 つながりの問い2：イスラーム世界の広がり、6つの州を越えて広く伝播しているこ

まとめ (5分)	本時のまとめ 本時の授業内容を踏まえ、14世紀のアフリカのイスラーム化について考え、Formsでまとめる。	とを意識させるとともに、「海のシルクロード」を介し移動していることに着目させる。 つなぎの問い3 中東から東アフリカ世界に向かう「海のシルクロード」の経路やゲーム内で登場する都市（モガディシュ、モンバサ、ザンジバル、キルワ）を意識させる。 →中東のオマーン（ザファール・マスカット）とのつながりがあることを意識させる。 →東アフリカの「海岸」に辿り着くように仕向け、「スワヒリ」との関係を考えさせる。
7. 資料（教材） ・「Swahili ساحل」ルールブック・「Swahili ساحل」権利書一覧・「Swahili ساحل」ゲームボード ・サイコロ（3つ）・権利書カード・歴史書（4枚1セット）・世界地図（白地図）・翻訳アプリ		
8. 評価規準に基づく本時の評価方法 ①1300年代のイスラーム世界における諸制度や文化が「Swahili ساحل」を通して、東アフリカ世界に流入した経緯について十分理解しているか。（知識・技能） ②「Swahili ساحل」を通し「海のシルクロード」における経済や言語のつながりを東南アジア、南アジア、中東、アフリカ、ヨーロッパなどの地域区分にとらわれず、多面的・多角的に考察し、表現しているか。（思考・判断・表現） ③イブン・バットウータが活躍した1300年代におけるイスラーム世界の情勢や「海のシルクロード」によって培われた経済や文化について、積極的に学ぶ態度を養っている。（主体的に学ぶ態度）		
9. 学校外との連携 ※JICA以外。なければ不要。 なし		
10. 学びの軌跡（児童生徒の反応・変容、感想文、作文、ノートなど） Q：今回の授業を通して、あなたは今回の内容をどのように考えましたか。（1）統合的レンズ（つなげる）（2）変容的レンズ（かえる・かわる）（3）批判的レンズ（見直す・捉え直す）（4）文脈的レンズ（グローバルな文脈）の視点から動画の内容を考えてみましょう。という問いに対して、 ①統合的レンズ（つなげる） ・東アフリカのイスラーム化は、宗教に限った話でなく、季節風による貿易、それによる文化の交流、経済活動などが結びついて起こったもの。交易を通じてアラブの商人が訪れ、言語、文化、宗教が入り混じることで、地域社会が多文化的につながった。 ・東アフリカのイスラーム化は交易、文化交流、政治の発展が全部つながって進んだもので、一つの要因だけでは説明できない複合的な変化だと感じた。 ・今回の授業を通して、言語・宗教・経済が全部つながって歴史を作っていることに気づきました。		

ゲームで旅のルートを進みながら、アラビアやインド、アフリカがどのようにつながっていたのかが体験的に理解できて、ただの知識じゃなく「関係性」として捉えられるようになりました。

②変容的レンズ（かえる・かわる）

・イスラーム文化を受け入れたことによって、東アフリカの政治や文化が大きく変化したと思う。法律や習慣、交易のやり方までイスラーム的な価値観に変わっていき、社会全体が外部との繋がりの中で「変容」していることが目に止まった。

・イスラームを受け入れたことで、都市のしくみや商人の生き方、人々の文化まで変わり、東アフリカ社会そのものが新しい姿に変容していったことが印象的だった。

・私はアフリカの歴史にあまり興味がなかったけれど、この授業を通して「意外と奥が深く面白い」と感じるようになりました。特に“交易を通して文化が混ざり合う”という視点は、これまでの自分の見方を変えてくれました。知らない分野でも、体験的に学ぶと見方が変わるんだなと思いました。

③批判的レンズ（見直す・捉え直す）

・イスラーム化を単に『広まった』として考えるのではなく、その裏で誰が得をし、損をし、どのような影響を受けたのかを考える必要があると感じた。東アフリカの支配層らは、交易で利益を得てイスラームを積極的に受け入れた一方、地域の中ではこの急激と言えるイスラーム化で戸惑う人は必ずいたと思うので、その点も考えるべきだと思う。

・今まで宗教が広がる＝強制的というイメージがあったけど実際は交易を通じた自発的で自然な受容もありその見方を見直す必要があると思った。

・授業前は「イスラーム＝中東の宗教」というイメージが強かったけど、実際はアフリカの沿岸地域にも深く関わっていたことを知り、今までのイメージが偏っていたと感じました。また「アフリカ」という一括りの見方がどれだけ雑だったかにも気づき、もっと地域ごとの歴史や背景を見ないといけないと感じました。

④文脈的レンズ（グローバルな文脈）

・アフリカのイスラーム化はグローバルな貿易ネットワーク（インド洋、アラブ）という大きな流れの中で起こったが、その受け入れ方は地域で異なり、独自の文化と混ざってローカルに発展していった。世界的なイスラーム化と独自の文化が相互して影響しあって進んだことだなと思った。

・インド洋世界という大きな国際交流の流れと地域ごとの言語、文化という現地の事情が重なった結果としてイスラーム化が進んだことを理解できた。

・14世紀の東アフリカはローカルな地域でありながら、インド洋を通してすでに“グローバルなネットワーク”につながっていたことが分かりました。現在の国際化と全く別世界のように思える時代でも、すでに人や物、宗教や言語が行き交っていたと知り、過去と現在のつながりを実感しました。歴史は遠いものではなく、今の世界にも続いている流れなのだと考えるきっかけになりました。

【本時または単元について、個人で振り返ったことを記載】

11. 海外研修で何を学び、どの部分を児童生徒に伝えようと思ったか	タンザニアでは、初代大統領ニエレレ大統領が構想したウジャマー政策がタンザニア国内に浸透し、スワヒリ語の浸透やイスラームやキリスト教、土着信仰の宗教観や部族間を超えたつながりを自国民に意識させていることがわかりました。また、日本との関わりが多様に存在し特に JICA の有償資金協力によるケニア -
-----------------------------------	--

	タンザニア連系送電線事業や JICA の技術協力によるコメ振興能力強化プロジェクトは日本の国際貢献を象徴していると感じました。生徒には「アフリカ」・「自然が豊か」・「黒人がいる」・「植民地」など固執した断片的なイメージではなく、「タンザニアを多面的・多角的に俯瞰して見る」とことや、歴史や経済を通して、アジアや中東世界とのつながりを意識して考えることが大事だと伝えたいです。
12. 苦労した点	自作でゲームを考えたことが大変でした。100冊ほど本を読み漁り、タンザニアに関わる歴史事象を1つ1つ考察しました。また海外の貴重な文献や資料なども集めたり、ChatGPT を駆使してゲームアイディアやイラストイメージを考えたりと、グローバルかつ生成 AI が発展している時代だからこそその授業作成にもチャレンジしてみました。
13. 改善点	作成したゲームに生徒が熱中してくれたのですが、授業のねらいに辿りつくように運営する必要があると感じました。
14. 成果が出た点	アクティビティを多く取り入れることで、生徒が関連する授業項目について関心を持ち、内容の進化統合を図ることができました。また、世界に対する関心を「世界史」を通して広げることができました。
15. 自由記述	教師海外研修での経験は自身の資質能力の向上に加え、全国の教職員との交流、生徒への還元が図られると感じました。今回の経験及び授業に限らず、今回のことを糧に今後も多くの国際理解教育の推進に努めたいと考えています。そして今回の研修及び授業を通じてお世話になりました JICA 関係者の皆様や、学校関係者、生徒の皆さんにこの場を借りて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

参考資料・使用教科書

『最新世界史図説タペストリー 二十三訂版』 帝国書院 2025
『ザンジバルの笛 一東アフリカ・スワヒリ世界の歴史と文化』 富永智津子 未来社 2001
『アフリカの過去』 著：バジル・デビッドソン 訳：貫名美隆 理論社 1990
『スワヒリ語のしくみ』 竹村景子 白水社 2016
『ニューエクスプレスプラス スワヒリ語』 竹田敏之 白水社 2019
『アフリカの過去』 著：バジル・デビッドソン 訳：貫名美隆 理論社 1990
『イブン・バットゥータの世界大旅行 14 世紀イスラームの時空を生きる』 家島彦一 平凡社 2003
『タンザニアを知るための 60 章【第 2 版】』 栗田和明・根本利通 明石書店 2015
『スワヒリ世界をつくった「海の市民」たち』 根本利通 昭和堂 2020
『大旅行記 1～8』 編イブン・ジュザイイ 訳：家島彦一 平凡社 1996
『鄭和の南海大遠征』 宮崎正勝 中央公論社 1942
『新・人と歴史 拡大版 21 世界史航海史上の先駆者 鄭和』 寺田隆信 清水書院 2017
『復刻版 小説 海のシルクロード』 庄野英二 理論社 2010
『スワヒリ都市の盛衰』 富永智津子 山川出版社 2008
『アフリカ史の意味』 宇佐美久美子 山川出版社 1996
『地中海世界の旅人―移動と記述の中近世史』 栗山保之ら 慶応義塾大学出版会 2014
『プランテーションの人類学 タンザニア・ボンデイ社会とココヤシ栽培』 高橋美也子 風響社 2023